

悠久

第 60 号 December 2022

本号の内容

- | | | |
|--------------------------------|----------------------------|------------------|
| ①「日中の懸け橋 吉備真備を偲んで」 | 岡山県日中懇話会 (公財)日本教育公務員弘済会 | 会長 竹井千庫 岡山支部長 |
| ②日中交流で得たもの ～オンライン交流で新しい刺激を～ | 岡山県立林野高等学校 | 指導教諭 西川一美 |
| ③吉備真備の顕彰活動と論語実践 | 矢掛町教育委員会 | 教育長 山部英之 |
| ④岡山後楽館高校における 日常の中の国際理解教育 | 岡山市立岡山後楽館高等学校 | 校長 矢吹玲子 |



西安環状公園吉備真備記念碑



岡山県日中懇話会会長
(公財)日本教育公務員弘済会岡山支部長

竹井千庫

「日中の懸け橋 吉備真備を偲んで」

今、日経新聞に阿倍仲麻呂・吉備真備を軸に話が展開する小説『ふりさけ見れば』が連載されています。奈良時代を扱った小説は珍しいなあと興味深く読んでいます。

奇しくも今年は、日中国交正常化五十周年並びに岡山県と中国江西省との友好提携三十周年という記念すべき年ですが、国レベルの交流は盛り上がり欠けており、誠に残念です。

こうした時こそ、民間レベル・市民レベルの地道で継続的な交流が何より重要であることは言うまでもありません。

私は、岡山県日中懇話会の会長を務めています。懇話会では江西省や吉備真備ゆかりの西安市への訪問団の派遣、青少年相互交流事業などを行っています。コロナ禍のために実施できない状況にあります。そうした中、関係者のご努力により、かろうじて高校生によるオンライン交流などが行われています。参加した高校生からは好評を得ています。

このような状況も踏まえ、岡山県日中教育交流協議会と初の共催で、「吉備真備の足跡を訪ねるオンラインツアー」を計画しています。西安市にある吉備真備を顕彰した記念碑の様子や西安の街並み、そして秦の始皇帝の兵马俑坑の迫力などを現地ガイドの方が案内するという試みて、少しでも中国悠久の歴史が実感できればと期待しています。

来年度こそは、対面で交流できることを願っていますが、中・高校生などの若い人には、人的交流・文化交流等々かけがえのない交流を積極的にしていきたいと思っています。

因みに、吉備真備は、奈良時代の政治家・学者として有名ですが、唐から書道、兵法、天文・暦、音楽、囲碁など多くの文物を伝えています。倉敷市真備町や矢掛町には、吉備真備ゆかりの史跡や資料館、記念碑などがあります。現地を訪れ、約千三百年昔の情景を想像してみるのも一興ではないでしょうか。

それぞれの国の歴史や文化に直接触れ、理解を深め、敬意をもってコミュニケーションを図っていくことが、日中間の友好発展に欠かせないものと考えています。

日中交流で得たもの

～オンライン交流で新しい刺激を～

岡山県立林野高等学校

指導教諭 西川 一美

はじめに

本校は、県北東部に位置する美作市唯一の県立高等学校として、今年創立百十四年を迎える歴史と伝統のある学校です。単位制普通科として特色のある教育活動に取り組んでいます。特にICT教育では全国の先進校として一人一台端末の活用が教育活動の基礎となっており、「総合的な探究の時間」や「みまさか学（地域学）」では生徒が地域や外部の方の協力をいただきながら課題解決型学習に取り組んでいます。生徒数三十四名と小規模な学校ではありますが、校訓『すべては光る、個性の輝き』のもと日々の学校生活を楽しく意欲的に過ごしています。

オンライン交流の実態

今回の交流会には、林野高校側は校長をはじめ、四名の教員と中国語講座を受講している生徒十三

名、琴部八名、吉井川舟唄同好会六名の生徒が参加しました。また、後半には美作市立作東中学校の生徒がオンラインで参加し、最後の質疑応答で「好きな日本語は？」と質問し「では、好きですね」との回答があり、場が和みました。



美作市立作東中学校が参加しました



交流会プログラム

令和四年十一月一日（火）
一五：三〇～一六：四〇

- (一) 出席者紹介
- (二) 学校代表挨拶
- (三) 到達高級中学生による伝統文化の紹介

国画実演、琵琶の演奏、木工製作所の紹介（ビデオ）





(四) 林野高校生による自己紹介

と伝統文化の紹介

自己紹介（中国語講座受講者）、学校紹介（スライド）、

吉井川舟唄同好会による踊り、琴の演奏

(五) 質疑応答
(六) 集合写真撮影

生徒の感想

実際に中国の人と交流して、中国語できちんと自分の自己紹介が

できるのか不安だったけど、交流会までにしつかりと練習をして、頑張った成果を交流会で発揮することができて良かった。

中国についてはニュースや学校で習う歴史などしか知らなかった。しかし、今回の日中交流会を通してお互いの学校について見たり話したり出来てとてもいい経験が出来ました。日本とは全く違う雰囲気や環境が画面越しにも伝わってきて、色々な国があるんだなと思った。緊張もしたけどとてもいい経験でした！

中国語講座で練習してきた中国語での自己紹介では実際に通じることが不安でしたが、発音を意識して話すことができたので練習の成果を出すことができたと思います。交流会では互いの国の文化や学校の歴史を伝え合うことができるとても良かったと思います。



おわりに

今回の到達高級中学の皆さんとのオンライン交流で、生徒達は日頃の自分たちの活動を中国の同世代の方々知っていただいたり、中国の伝統文化や学校の教育活動の一部をリアルタイムで見ることができるといふ貴重な経験をさせていただきました。また、質疑応答の中で実際に通訳を介して会話

することも刺激になっていたようです。この経験を生かして今後の学校生活を意欲的に取り組んでいくとともに、コロナ禍ではありませんが国際的な視野を持って今後の生活を送ってもらえたらと考えます。

最後に、今回の交流をご支援いただいた岡山市日中友好協会松井三平専務理事、岡山県日中教育交流協議会大川泰栄事務局長をはじめ上海市奉賢区外弁国際交流センターや上海市友好協会の方々、通訳の皆さん、そして両校の先生方生徒の皆さんのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。



吉備真備の顕彰活動と 論語実践

矢掛町教育委員会

教育長 山部 英之

小田川流域の矢掛町から倉敷市真備町にわたる一帯は、奈良時代に遣唐使として二度にわたり入唐し、進んだ文明を我が国に伝えた吉備真備（きびのまさび）ゆかりの地として知られています。矢掛町（以下本町）では、このような真備公の遺徳を偲んで、昭和六十三年（一九八八年）に吉備真備公園を新たに整備しました。公園周辺には吉備真備の産湯（うぶゆ）の井戸などが言い伝えられ、また、真備公が唐の都から持ち帰った文物の一つである囲碁に因み、この地を「囲碁発祥の地」として顕彰しています。

また、地域住民が中心となり長年にわたって顕彰活動に取り組んでいます。さらに、平成九年から中国・西安市と研修生交流事業を開始するなど、本町は中国と長年にわたり交流活動を続け、平成十一年から平成二十七年まで、本町と中国・西安市の学生同士がホームステイによる相互交流を行ってきました。

【学校における取組】

吉備真備公園に隣接する矢掛町立三谷小学校では、六年生が総合的な学習の時間に、地域住民を講師に迎

えて地区の歴史や吉備真備についての探究学習に取り組んでいます。

〔吉備真備公についての学習計画〕

- (一) 吉備真備公ゆかりの寺「閑勝寺（こくしょうじ）」見学
学習の導入
- (二) 吉備真備公園見学計画立案
・公園（囲碁のテーブルなど）と吉備真備公とのつながり
・公園が造られた理由
- (三) 図書資料やインターネット等を活用した調査学習
- (四) 吉備真備公園・資料館見学
- (五) 学習発表会の場で発表

〔児童の振り返り〕

吉備真備は遣唐使として中国に渡り、いろいろな勉強をしてたくさんさんの文化・文明を日本に持ち帰ったということがわかりました。また、努力を重ねて立派な役人となったすごい人だったというお話も心に残りました。中国であまりにも優秀だったために伝説までつくられたなんて、本当に驚きました。わたしたちの地域の誇りだと思いました。わたしたちも吉

備真備のような人になりたいと思いました。

【矢掛町における論語実践】

本町は吉備真備ゆかりの地であり、江戸時代には参勤交代の宿場町として栄え、国の重要文化財である本陣・脇本陣がともに現存する全国に誇れる歴史と文化のおおる町であります。このような歴史的背景を鑑み、私は多くの町民の方々に、吉備真備も学んだと思われる中国の古典である論語等を身近に感じてほしいと考えました。

そんな折、町役場人権担当係から「小学生に人権教育について話をし



吉備真備公園



資料館見学の様子

てほしい」と依頼があり、私は論語を題材に「思いやりの大切さ」等について話をすることにしました。

七月二十八日に矢掛小学校を会場に、低・中・高学年別に「論語を読んで仲良く元気に」という題目で話をしました。低学年には、「仁」「義」「礼」「智」「信」などの論語の五つの徳目についてイラストをもとに意味等を説明した後、子供たちと一緒に「じん、じん、じん・じん・じん」などとリズムカルに楽しく笑顔で音読したり身体表現をしたりしました。

中学年では、小学三年生道徳教材「あつたか言葉」をもとに「君子は人の美をなす」という論語を紹介し、「友達のよいところを見つけよう。心が温かくなるほかほか言葉を使おう。」という話をしました。

併せて「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」という論語を紹介し、どうして自分が嫌なことは他人にしてはいけないのか、その理由を子供たちに考えさせるなどして学びを深めていきました。また、高学年では、六年生道徳教材「インターネットでつながる友達」をもとに、「朋友と交わりて信ならざるか」という論語を紹介し、友人同士でのSNS等のよりよい使い方について考える学習を行いました。



論語実践の様子

低学年児童

〔児童の感想〕

「仁義礼智信」を読むのがとても楽しかったです。体を動かすのがとても楽しかったです。

かん字一字一字にたいせつな意味があることをはじめて知りました。今日ならった論語をおぼえておきます。大切にします。

高学年児童

今日は論語について、いろいろ教えてくださりありがとうございました。イラストやSNSの会話などを使って説明していただいたので、すごく分かりやすかったです。私は論語がインターネットの中で生かせることが分かって驚きました。これからは論語をしっかりと意識しながら過ごしていきたいと思いました。

高学年児童二

今日のお話を聞いて論語に興味をもちました。これからは自主学習などで論語についてたくさん調べたいと思います。また、今日教えてい

ただいた論語を大切に生活したいと思いました。私が入った論語は「君子は人の美をなす」です。この論語のように、人のいいところを見つけて褒めてあげたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

子供たちのこのような感想を読み、「論語の話をしてよかった。矢掛町の子供たちの感受性は素晴らしい」ととてもうれしい気持ちになりました。これからもこのような「論語実践」を町内の小中学校等で実施していきたいと考えています。

〔児童に紹介した論語〕

己の欲せざる所に施すこと勿れ

君子は人の美をなす

朋友と交わりて信ならざるか

岡山後楽館高校における 日常の中の国際理解教育

岡山市立岡山後楽館高等学校
校長 矢吹 玲子

岡山後楽館高等学校では、スクールポリシーの中に育てたい生徒像、求める生徒像として、「異なる考え方や個性を持つ他者と、対話による理解に基づいた共生社会を実現することができる」、「国際交流などに積極的に参加し、多様な価値観を理解し受け入れようとする」という表現をスクールポリシーの中に掲げています。これまで国際理解教育に積極的に取り組んできた岡山後楽館ですが、約三年間に渡るコロナ禍を経て、その取り組みの形が次代のステージへと変わろうとしています。国際理解教育は一時的で限定的な特別イベントでは十分とは言えません。様々なバックグラウンドを持つ人々が、日常生活において身近にごく自然に居て、互いを受け入れ尊重し合うということを体験してこそ、グローバルな感覚を涵養することができるのではないのでしょうか。このような考えに基づき、本校の現在及びこれからの国際理解教育の取組を紹介します。

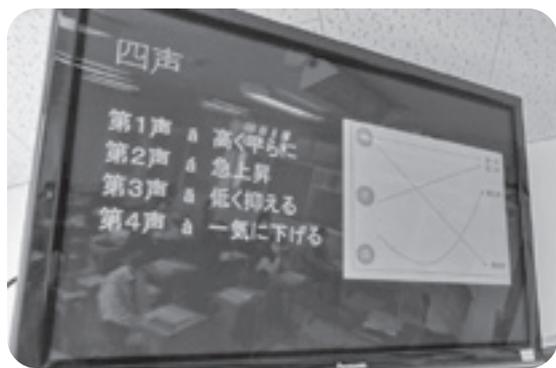
外国語教育

岡山後楽館では、外国語として「英語」に加えて「中国語」と「韓国語」の科目が開設されています。高校の授業としてこれらの外国語を学習できる環境は珍しく、しかも授業を担当するのはカナダ出身のナンシー先生、中国出身の支先生、韓国出身の李先生です。言語というのはそれが使われている国の文化や生活スタイル、価値観などを含んでいるものですので、生徒たちは外国語の学習を通じて、その国の教師から直接、それぞれの国の歴史や考え方、感じ方などを体験的に学んでいるようです。外国語教師が毎日の学校生活を共に過ごし、授業以外の場面でも相談に乗ってくれたり、行事に参加したり、放課後にはスピーチやエッセイのコンテストのための指導をしてくれたりします。生徒にとって、外国の方と接することがごく自然で日常的であることに、大きな価値があると考えられます。

授業で外国語を学んだ生徒たちの中には、それぞれの言語でのスピーチコンテストに出場したり語学検定を受検したりする者もいます。今年度の中国語スピーチコンテスト岡山県大会では最優秀賞を受賞し、全国大会への推薦をいただきました。

国際友好交流

岡山市立である本校では、岡山市の国際友好交流都市である中国洛陽市との定期的な交流が続けられており、令和元年七月には洛陽



中国語の授業は「語学入門」。
初日は中国語の発音から学習しました。

外国語学校、洛陽華洋国際学校から三十六名の学生が本校を訪問し交流をしました。

また、友好交流校である韓国ソウル市の柳韓（ユハン）工業高等学校と、アメリカサンノゼ市のシルバークリーク高校との間で、お互いに直接訪問したりホームステイをするなどして親交を深めてきました。同世代の高校生同士の交流は、本校の生徒にとって大きな楽しみであります。刺激や影響を受け、言語の違いを超えたコミュニケーションに非常に積極的になり、同時にそれぞれの国の生活や文化に興味や親近感を持つことで理解が深まっています。

オンライン交流

コロナ禍の影響で、渡航して直接相互に訪問する形での交流ができない期間に、オンラインでの交流が随分進化した。放課後の一時間程度、コンピュータ教室に希望する生徒が集まり、双方の教員がホスト役をしながらZoomを



オンラインで交流している相手の学校からはプレゼントや手紙が届くことがあります。こちらからも心を込めて送ります。

使って交流を行います。生徒はモニター画面に映る交流相手の生徒と、国境を越えてまるで同じ空間にいるかのような感覚で気軽におしゃべりを楽しみます。多い時で一〜二週間に一度の頻度で実施することもあります。手軽さから交流の機会が増えるとともに、経済的な負担がかからないため参加する生徒の人数はとて多くなっています。

また、文部科学省や様々な国際的に活動している様々なNPO法人や団体等が、オンラインを活用



Zoomを使ってオンライン交流中。楽しい話が盛り上がっています。

した国際交流プログラムを提供しています。本校は文部科学省が主導するプロジェクト「#せかい部」の加盟校に登録され、生徒はそれぞれの興味関心に応じて国際交流・探究プログラム等に参加しています。また、本校は、Kizuna Across Cultures (KAC) が企画・運営している「グローバル・クラスメイト」の参加校に二年連続で選ばされ、アメリカの高校とオンライン交流しています。グローバル・クラスメイトにおいて実施されたビデオコンテストでは、本校生徒の

動画作品が日米総合グランプリを受賞しました。

そのほかにも、県内の大学の御協力により、留学生との交流をオンラインで実施しています。中国、ベトナム、タイ、インドネシアなど様々な国から来日している留学生と文化の違いや母国の教育制度、労働環境など様々な話題について話し合っています。

このように、平日の放課後に校内に居ながらにして、様々な国の若者たちと時間を共有し、自分たちのペースでおしゃべりをしながら理解と友情を深めていくことができるような環境が、これからの学校には必要なのでしょう。国際理解教育が、学校生活の一部になり、ひいては日常生活の一部になることが、グローバルな社会をこれから生きていく若者たちの考え方や振る舞い方など、生き方そのものに大きな影響を与えると信じています。



bene(よく)+ esse(生きる)
Benesse=「よく生きる」



株式会社ベネッセホールディングス
〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
<https://www.benesse-hd.co.jp/>

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校 通信制課程

海外に居ながら日本の高等学校を卒業。
日本の大学で学び、世界で活躍する人になる。



〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
Phone : 086-256-8562 / Fax : 086-256-8563
Web : <https://www.r2hs.jp>
Mail : otoiawase@r2hs.jp

岡山県日中教育交流協議会とは、

- 1 学校、団体、個人を会員とする民間団体です。
- 2 会費は、年会費（4月～翌年3月）です。
団体（教育委員会・学校園）・・・3,000円、個人・・・2,000円
- 3 主な活動内容は、
 - (1) 中国との教育交流（リモート交流での技術面のサポートも含みます。）
 - (2) 交流校の紹介、講師の派遣、各種資料の提供、教育事情調査団派遣等
 - (3) 会報「悠久」の発行（県内小中学校、高等学校、教育委員会へ無料配布）
 - (4) 日中青少年交流事業－STUDENT EXCHANGE 事業－
 - (5) 交流活動発表会開催や教育交流実態調査等

岡山県教育交流協議会は、会費と助成金、補助金で活動しています。
この機会に、是非ご入会ください。

岡山県日中教育交流協議会 会報「悠久」第60号

発行：令和4年12月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041